

長がまとめる方法で、それぞれ「みんなで力を合わせて行動する」など、目標を立てた。

全校児童でつくる異学年の交流グループ「ひよどり班」の取り組みで、自然学習会実行委員の六年高橋和樹君（こ）は「自分たちで決めるのはたいへんだけど、低学年から高学年までみんなが楽しめるようにがんばりたい」と話す。

校歌の歌詞でも「笑顔明

の作詞に杉野市定男氏。作曲は中原都男氏。



多くのことを学んだり返る。地域住民の小学校いは強く、戦後三改築を実現した。児童数は減少傾向だが行事への参加者は増かりで、児童たちが囲は地域住民にもいるという。

自然学習会について出し合った児童たち

障害者の自立と社会参画拠点に

舞鶴市障害者総合支援センターが五日、余部上にオープンする。これまで知的障害児・者や身体障害など種別に、市内四カ所にあった各支援センターの機能を統合し、一元的な施策の推進を目指す。四日には関係者による開所式があった。

障害が重複する人への便宜を図るとともに、本

舞鶴市総合支援センター

きょうオープン

4カ所の施設機能を一元化

年度から全国的に導入された「支援費制度」のスムーズな運用に向け、市が設置した。施設は、旧社会福祉会

館（三階建て、延べ約五百四十平方メートル）を転活用。知的障害児・者と聴覚言語障害者の支援センターが移転して入り、身体障

害者と精神障害者については今のセンターを残し、職員が週二回、総合センターを巡回する形をとる。

市と府が、種別に四社会福祉法人に運営委託。在宅福祉サービスの利用援助や調整、生活相談などを担う。館内には、事務所のほか作業室や日常生活訓練室なども整備

開所式には、行政や福祉施設の関係者ら約八十人が出席。江守光起市長は「（センターを拠点として）障害のある人たちの自立支援、社会参画に向け、一層努力していきたい」とあいさつした。

開館は平日の午前九時～午後五時。問い合わせは総合支援センター 0773(64)3766。

5日にオープンする市障害者総合支援センター（舞鶴市余部上）

高野川河川敷の草刈る



西舞鶴高生徒ごみも

ふるさとの環境美化を進めようと、西舞鶴高の生徒たちが四日、学校近くを流れる高野川の堤防や河川敷の草刈りなどをした。

ふるさと

の町後丹 水道公共 丹後町が、中心部の間人地区などを対象に進めてきた特定環境保全公共下水道事業の終末処理施設「丹後浄化センター」が完成。今春からの一部使用開始を祝い、六日午前十時から記念通水式を催す。

あす記念通水

終末処理施設

同事業は三宅、徳三十四戸を九五年に九五年にとなる管尿、生活排水の終末処理事業費は千万円。